

花ごよみ

2023年 246号
9月15日

発行：(公財) 東京動物園協会 井の頭自然文化園

暑さも和らいで、虫の声や実をつける植物から秋の訪れを感じられる季節になりました。

1 怪しく気高い花



ヒガンバナ

ヒガンバナの名前は、秋の彼岸の頃に花が咲くことに由来しているようです。草花の多くは葉が出てきて、花を咲かせますが、ヒガンバナはその逆で、春の終わりに葉が落ちた後に花芽がのび、花を咲かせてからまた葉がのびます。当園では、園内各所で見るすることができます。

2 白いヒガンバナ



シロバナマンジュシャゲ

白いヒガンバナとして知られているのがこの花。ヒガンバナとショウキズイセンとの自然雑種だと言われています。

3 魔女のホウキ?



パンパスグラス

羽毛のような柔らかく大きな花穂が特徴です。アルゼンチンをふくむ南アメリカが原産で、当園ではアルゼンチンの固有種マーラの展示場に植えられています。

4



ヌスビトハギ

5



ハギ

6

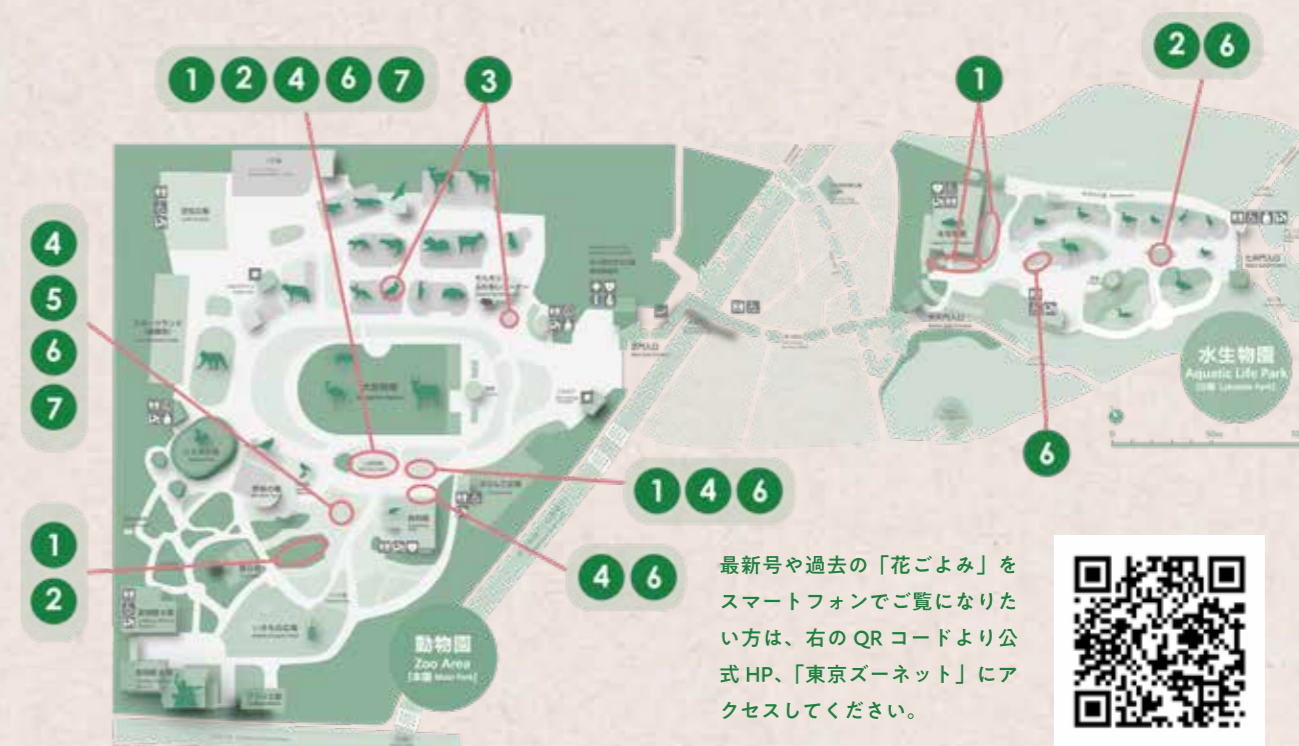


ミズヒキ

7



キツネノマゴ



最新号や過去の「花ごよみ」をスマートフォンでご覧になりたい方は、右のQRコードより公式HP、「東京ズーネット」にアクセスしてください。

